

日本史と縁がない古代ギリシャ・ローマ時代を見ます

歴史に先立ちヨーロッパ全体を見ます。

ヨーロッパ人を日本人が知ったのは戦国時代の16世紀なかごろに種子島にポルトガル人が漂着してからです。

それまで日本人と外国との交流は古代以来ほとんど中国と朝鮮で、文化、文明の伝来は両国からです。インドは仏教伝来の元との認識があっても交流はありません。

英語で「**EUROPE**」、「ゆらっふ」、「ゆーらっふ」、「ゆあらっふ」と称します。各国で綴りや読み方はいくらか違います。漢字では「欧羅巴」、日本では“ヨーロッパ”と称します。戦国時代にポルトガル人が日本にやって来て彼らの発音がそう聞こえたのでしょう。略して日本では「欧州」と称します。

それではヨーロッパの現状です。

先ず地理です。面積は約1千万平方キロです。アジアが4千4百万平方キロです。アジアとヨーロッパの大陸を一つにしてユウラシア大陸と言っています。ヨーロッパはアジアの5分の1位でしょうか。

ユウラシア大陸の西方にあります。ヨーロッパとアジアの境はロシアのモスクワの東方千キロの所に南北にウラル山脈あります。その山脈のさらに南方（黒海とカスピ海の間）への線の西側がヨーロッパです。（別紙現在のヨーロッパ地図の略図を参照ください）

山に囲まれています、平坦な平野部が大きく、河川は多いですが、大河川はありません。

人口は7.4億人、現在の国は48か国で、人口の多い順でロシア（1.4億人）、ドイツ（8千万人）、イギリス（6千万人）、フランス（6千万人）、イタリア（6千万人）、スペイン（5千万人）と続きます。

エジプト、イラン、イラクやトルコ等の中東はヨーロッパには入りません。

因みにアジアの人口は44億人、中国の人口は13億人、日本は1.2億人です。

上記の地理的、人口的な規模でありながら近世・近代・現代にかけてヨーロッパ人が世界において際立った役割をなしてきたことは認めざるを得ません。

次に人種です。

ヨーロッパ人は本来は白人（コーカサイド）の居住地です。その多くがインドヨーロッパ語族で一部中央アジア系（ハンガリー人）等が混じっています。

日本人は、中国人、モンゴル人とともに黄人（モンゴロイド）です。ですから元々の人種が違うと言えるのです。

とは言え、動物学的、人類学的には人間はみな同じで白人、黄人、黒人と分けることは否定されています。ヒト属・ホモサピエンス種で一属一種です。種はホモサピエンスだけです。又この下部の分類はしません。（白人、黄人、黒人さらに民族、部族）

インドヨーロッパ語族はアーリア人とも言われますが、同じような系列の言葉を話す人々をひとくくりにしたに過ぎません。

このインドヨーロッパ語族は大きく分けてギリシャ・ローマ人（ラテン人）、ゲルマン人、スラブ人、ケルト人となりますが、ゲルマン人はさらに50以上の部族に分かれます。良く知られていますのがドイツ人、フランス人の先祖でフランク人、イングランド人の先祖のアングロサクソン人等々です。

それでは古代のヨーロッパのギリシャ。ローマ時代の特徴をまとめます。

白人—インドヨーロッパ語族—ギリシャ・ローマ民族{ラテン人}の歴史です。

○ギリシャ時代

ヨーロッパの歴史の始まりは、やはりギリシャでしょう。ギリシャ文明で有名です。紀元前20世紀にギリシャにギリシャ人が住んでいましたが、紀元前10世紀頃からスパルタやアテネなどの数百をもの都市国家（ポリス）が起こり地中海沿岸を植民地として隆盛しました。ギリシャと言う国はありません。

代表的な都市国家アテネは民主制と言われていますが、参政権は男子だけで女子と奴隷にはありません。それでも民主政治の基はアテネの民主政治を起原とするのが普通です。

ギリシャの文化、文明は良く知られるところです。宗教は多神教ですが、神々の王“ゼウス”を筆頭にオリンポス十二神が有名です。

一方自然科学、哲学の究明は今日まで世界で学問の基になっています。内容や教えはここでは割愛しますが、自然科学ではピタゴラスの「ピタゴラスの定理」、アルキメデスの「アルキメデスの原理」等そしてソクラテス、プラトン、アリストテレスなどは今日でも良く知られた哲学者ですね。

紀元前4世紀のマケドニアのアレクサンドルス大王の東方遠征は有名です。

しかしギリシャの都市国家は3世紀あたりから内紛と、国家間の紛争で各

国とも勢力を落として行きます。

○ローマ時代

ギリシャの都市国家に代わってイタリア半島のローマが台頭してきます。紀元前3世紀にイタリア半島をいわゆるローマ人が統一します。

以後北アフリカのカルタゴ、イスパニア、ガリア、エジプトを統治し、紀元2世紀にはローマ帝国はヨーロッパのほとんどを支配しました。(ライン川以西とドナウ川以南のヨーロッパ、北アフリカ、地中海)

カエサル(シーザー・ケーザル)の活躍は有名ですね。元老院で暗殺されます。(紀元前1世紀)

ローマ人と何者でしょうか。ギリシャ全盛の頃はイタリアはギリシャの都市国家の支配でした。ギリシャ人がイタリア半島に乗り込み地元のラテン人と混合してローマ(帝国)を打ち立てました。

ローマの歴史は日本人にはなじみにくいのですが、塩野七生の「ローマ人の物語」全15巻が出版されています。長いので読むには難儀です。

ローマの強さは軍隊にあります。体格は他の民族(敵)に対しさほど大きくないのですが、一人一人に兵隊(歩兵)が勇敢で強いのです。

しかしこのローマ帝国も陰りが出てきます。平和ボケでしょうか兵隊になり手が少なくなり、現地採用の兵隊や傭兵に頼るようになります。

コロシウムで拳闘士の戦いは有名です。

この拳闘士は最初はローマ人同士の戦いでした。しかしローマ人はもう危険な拳闘士になりたがりません。奴隷に拳闘をやらせ、見るようになります。

ローマ帝国もヨーロッパの全土を制圧したわけではありません。ライン川以東や黒海の西側は支配権ではありません。

ライン川以東はローマ人にとっては蛮族であるゲルマン人の居住区です。このルマン人とローマ帝国は相互に不可侵を協定していました。そしてローマ帝国は軍人不足から彼らを傭兵として雇っていました。

そこにローマ支配地外のヨーロッパ周辺の民族間で大移動が始まりました。これが4世紀に始まったゲルマン民族の大移動です。

この移動は中央アジアのフン族が黒海の西側まで移動して来たため、

その地にいたゲルマン人（ゴート族）がヨーロッパの中央、西、南地方へ押し出されて来たためと言われていています。更にヨーロッパの東側（ライン川以東）のゲルマン人（フランク族、アングロサクソン族）も西側に押し寄せて来ました。

ローマ帝国の衰退は軍隊の弱体化によるものと言われていています。

もちろんローマ帝国でもゲルマン民族の侵入の対策を練りました。それは先ずゲルマンの侵入経路を防ぐために都をローマから黒海の西南のコンスタンチノーブルに移しました。（4世紀の終わり）

ここでヨーロッパの東側を統治しました。東ローマ帝国言い、元のローマを西ローマ帝国いいます。やがてイタリア半島はゲルマン民族（東ゴート人）の勢力が強くなり、5世紀の後半には西ローマ帝国は消滅します。

まあ結局都を移した東ローマ帝国がイタリア半島とヨーロッパの西の地域を手放さざるを得なかったと云うことです。

この後西ヨーロッパはゲルマン人の支配となって行きます。

ここまでが西洋史では古代です。西暦5世紀までです。これ以降は中世の区分になります。

さてこの時代日本は何をしていたかです。

日本で古代をヨーロッパ史と同じく5世紀までとしますと、縄文時代、弥生時代、古墳時代となります。

当時の日本史での文献資料がほとんどなく、歴史はほとんど考古学だけに頼る時代となります。

文字文化が遅れていた日本は西洋史に比べて分からないことが多いのです。

古代のローマ史は実に詳しいです、何年、何月、何日まで分かります。当時の科学。文化の水準、様子が文字として残っています。

余談です。

そこで日本の歴史学は古代を更に平安時代まで（12世紀）まで延長しました。

古墳時代（5世紀）までを古代にすると、日本史の記述は西洋史に比べて内容がすけすけになってしまいます。飛鳥時代、奈良時代、平安時代まで延長しますと日本史も記述仕切れない程多くの文献資料があります。

2016年1月12日

梅 一声

現在のヨーロッパの略図

